

第21回人間らしく働くために 労災職業病九州セミナー

in北九州

現地実行委員会ニュース No. 1 2010. 2. 16 発行

(当面の連絡先) 健和会労組 581-1864 Eメール intessa@jeans.ocn.ne.jp

日高携帯 090-8225-7182 ホームページ <http://kyusemi.jp/>

2010年1月29日の18時30分から、小倉北区男女共同参画センター「ムーブ」5階大セミナールームに於いて、九州セミナーの現地実行委員会結成総会がおこなわれました。30団体と個人で計108名の参加を得て大きく成功しました。以下その報告をおこないます。

//////// ごあいさつ //////////

初めに、開会あいさつを日高さん(健和会労働組合委員長)がおこないました。北九州での前回開催は、1999年でした。この年は「今の労働者に非常に厳しい状況を作り出している、派遣法の原則自由化もたらした年でした。」と当時を振り返りつつ、「昨年行われた熊本でも、あらためて人間らしく働くということはどうなのかということが、熱く論議されました。そのセミナーを引き継いで、今年の北九州セミナーでは、発展させていきたいと思っています」と力強くあいさつを行いました。

この結成総会は、二部構成でおこなわれました。

//////// 第一部 ミニシンポ //////////

進行役をされた、田村さん(九州セミナー議長)から、「今日は、北九州で働いている人たちの現状をまず知ろうというふうに思っています。どうすれば健康な職場を作っていくことができるのか。今から皆さんと一緒に勉強したり、調査をしたり、そういう取り組みを通じて、11月のセミナーを迎えたいというふうに思っています」とミニシンポの意義が話され、壇上に上がった4人の方それぞれの立場か

ら、働く現場の現状についての報告がおこなわれました。

//////// 自治体の現場では //////////

初めは、北九州市職員の状況について永野さん(市職労副委員長)から報告です。

「北九州市の職員の仕事は、区役所の関係、本庁の関係、保育所・学校の関係含めて、市民の皆さんが、安心して安全に暮らせるというサービスを全般的にやっているところであります」とその仕事の重

要性をまず話されて、「そうした中で職員がどんな状況で働いているかという事なんですけど、この5年間見ただけで、1000人くらい職員が減らされている。そうした中で、職員の休職、病休が増えています。直近の例でも

長期の休職者が117人。中身の問題なんですけど、疾病別に見ると、第一位がメンタル62%。あとはガンとかそういったことになるわけなんですけど、本当に職場の中での人員削減の中で、精神的に病んでいる職員が増えているという状況です」と市の職員の危機的な状況が話されました。

ただ、それは全国の自治体でも「地方公務員全体を見てみると、この10年間でメンタルなどの関係が3.3倍になっています」として全国的な状況であること。しかしながら、それでも北九州の実情は厳しく「そうした中で北九州の働き方、北九州市役所の中での働き方の関係で言うと、全国の平均よりもその比率が高い。全国の県と政令都市の関係でいいますと、60いくつありますけれども、上位の9番目



になります（病休）」

そういう厳しい状況でも、組合は頑張っている。「私たち労働組合としても、職員が健康で安心して働き続けられる職場づくりということで、3年くらい前からようやく、区役所単位に、安全衛生委員会が持たれるようになりましたけれども、本当に今、少しずつですけど、運動が芽を吹いている状況です」として組合としての、今年の課題と展望を力強く報告されました。



//////// 医療の現場では //////////

次は、健和会労組の伊藤さんから、医療の現場からの報告です。「今、医療の現場では、医師、看護師、介護職員不足が深刻となっており、医療現場でのメンタルヘルス不全の増大が顕著に表れているように、健康被害が広がっています。この間さまざまな医療にかかわる団体が増員闘争に力を入れて運動を行ってきました」と医療の過酷な現場と闘いの状況が話されました。

その成果として、国会への働きかけ等で、「医学部定員削減の閣議決定の撤回やそれに続く新政権与党、民主党の公約として、医学部学生の1.5倍化方針が打ち出されました。介護職員については昨年4月の介護報酬プラス改定。10月の処分改定交付金の支給を勝ち取る」という成果もありましたが、これから時間がかかることや、その内容も不十分ということで、今後の闘いが注目されます。

また、人手不足の要因として、「看護の現場では業務の多忙さ、夜勤のつらさ、健康、結婚や出産、家庭の事情など、さまざまな問題を抱える看護師が、毎年多数退職しています。働き続けることが出来ず

に職場を去る看護師は後を絶たず」悪循環をもたらしているということです。

さらには、「2001年3月に大阪で、2007年5月に東京都で20代の2人の看護師が過労死しました。「2人は不規則な交代制勤務の上、月に約80時間も時間外労働をおこない、若くして尊い命を失ったのです。日本看護協会は、この若い2人の過労死認定をきっかけに2008年10月時間外勤務、夜勤、交代制勤務など、緊急実態調査を実施しています」「この調査で、全国で約2万人の看護職が過労死危険レベルの勤務をしていること。特に20代が時間外の勤務時間が長く、医療事故の不安を強く感じ、未払い時間外労働の問題が明らかになっています」。不幸にして起こった過労死から、二度と悲劇を繰り返さないための取組みに、頑張っている姿が明らかにされました。

「看護とは全ての患者に対して生命力の消耗を最小限にするよう働きかけることではないでしょうか。その看護師が自分の命を削りながら過酷な労働に耐え看護をしている状況があります」

「日本看護協会は、過労死を2度と起こさないための、ナースのかえるプロジェクトを提起しています。私たちの医療の職場を働きやすく、続けていける職場にするために、奮闘していきたいと思います」と締めくくられました。

//////// 建設労働者は //////////

3番目は、福建労北九州支部書記長の 新屋敷さんから、まず福建労の紹介がありました。「正式名称は、福岡県建設労働組合と言います。福岡県内の建設に従事する、親方、職人、労働者。そういった建設に従事する仲間組織をしています。約1万3000人の組織を要した労働組合です。組織の中には、特に一人親方と呼ばれる事業者であって、労働者であるという複雑な立場の職人さんたちが多くいます」

また、最近の建設業界に対する悪いイメージの中でも、「みなさんの身近な処で、住まいや建築、それから街の環境に、安心と安全を与えることに誇りを持って仕事をしているのが福建労の組合ということで、是非、理解をしてもらいたい」と訴えられました。ただ、この大不況で仕事が激減し、生存の危機

と隣り合わせで頑張っている状況も報告されました。

アスベストの問題については、「建設従事者のほとんどが、アスベスト被害の対象者であり、2005年6月のクボタ報道をキッカケに、日本中にアスベスト問題が知られるようになりましたけど、福建労ではその数年前から、このアスベスト問題については、警鐘をうながし、取り組みを進めていました」

「福建労ではこれまで、県全体で、20人のアスベスト被害による労災認定を勝ち取っていますが、まだまだこれはほんの一部だと思っています。これまでも言われている通りこれから、さらに被害が拡大されると言われています。私たちはアスベスト被害の掘り起こし運動を保険診療のレセプトを活用したりしながら、さらに進めているところです」「健康管理手帳の取得も力を入れています。健康管理手帳を福建労独自様式で、労働局と交渉しながら、簡易な手続きで取れるような要請書を獲得することが出来て、健康管理手帳の取得もどんどん進めているところです」とアスベストに関して先進的に取り組んでいる状況が報告されました。

最後に、昨年暮れからマスコミに次々と報道された、「建設国保」について、「自分たちで作った国民健康保険を自分たちの運動の中で、いま守り育てています。これは私たち建設職人にとって命と健康を守るかけがえのない制度です」と説明され、守るための運動に協力をお願いがありました。

//////// 派遣労働者は //////////

最後は、JMIU 京築地域支部の田川さんから派遣労働者の状況についての報告です。

「F 派遣会社を通して、日産の派遣におととしの2月11日から働いていました。教えてもらってするんですけど、いきなりやらされるんで、半日で辞めた人もいます。派遣社員が辞めれば、そこの穴を埋めていく、いろんなところに飛ばされて行きました」ただ機械の一部のように、日々、職場をたらいまわしにされて行く、生々しい派遣社員の実態。

「派遣社員というのは、ただ働いているだけ。仲間とのふれあいもないし、社員は社員、派遣は派遣と区別されている」「ぼくが派遣切りにあったのが、ちょうどリーマンショックがあって、トヨタから始

まったんですけど、日産は調子がいいなと思ってた。ニュースで見たのが、日産の車は、作っているうちの9%しか売れていないと。もしかすると首を切られるんじゃないかと仲間と話していた。案の定、12月17日にF派遣会社の責任者に呼ばれて、冗談半分で言ったんですよ。『もしかして、首』みたいな感じで言ったんですよ。『ウン』みたいな感じで言われて、『エーッ』みたいな。頭ほんとに急に真っ白になった。本当に、信じられないくらい無権利の状態に置かれている労働者の話しです。



「1月10日に初めて労働組合を作ったんですよ。もう一人Mさんという方と2人で申し入れに行った。F派遣会社と日産へ行ったんですけど。日産は全然だめだったんですけど、F派遣会社の方は、ぼくは、8月まで半年あったので、6カ月の賃金を要求。何とか団交までいって、賃金を勝ち取った」「労働組合も大変だったんですけど、1月の間で求職活動したが10社落ちて、11社目でなんとか採ってくれた。この会社は、交通費は出ないとか、給料がほんとに安いとか。しかも、売り上げの高い月は、給料が良く残業が一杯付くが、売り上げが悪い時は、給料が少ない。売り上げで給料が月によって違う。いまの時期はすごい暇なんで残業つけてくれないんですよ。波がありすぎて、生活するのも大変」

まさに国策として作り出されたワーキングプアの実態がここにあります。

「青年が一番困っているというのは、雇用が無く、給料が安いという事です。アルバイトで淡々とやっている人とかは、別にいいと思うんですけど、それじゃあ将来が全然見えないと思うんで、やっぱり

正社員という雇用をしっかりと作ってもらって、仕事は仕事、趣味は趣味という時間がしっかりと作れる。いまほとんど仕事だけしか出来ない。逆に仕事が無くてずっとさまよっている人がいる。その2つの選択肢しかないような感じ。それはほんとに平等に行くような感じを僕は願っている」と青年の切実な要求を切々と語られました。

////// 会場からも意見が ////

門司地区労の服部さんからは、「全港湾は、港の荷役の仕事の関係をやっております。アスベストの原材料を荷役で扱っていました。国は全く無視していましたが、日本港運協会との話によってですね、アスベストの基金を、担保しております」「まだ相当のアスベスト被害者が出るということで、計算しましたら150億ぐらいの資金が必要になるという計算を出しています」

民商の岩下さんからは、「健康保険法の特定検診という中で、健康診断をやっていますが、健康を壊すのは不況だとよくいわれますが、不況が解決すれば健康になると、半分冗談ですが、特定検診非常に受診率が半減している。全国レベルの中でも、福岡県は非常に健康診断を受けない方が多いという数字が出ております」「非常に経済が厳しい。健康管理もそういう意味では費用がかかるとかですね。民医連の方とも受診を増やすかという事をご協力いただいておりますが、先ほど言いましたように、売り上げが伸びて商売があつてやつとですね、健康管理もできると。売り上げが無いと健康に関心がいかない」

////// 弁護士の立場から ////

弁護士の縄田さんから、コメンテーターとして、「いろいろお話をお聞きして、弁護士でやってみて、ホントに思うのは、10年間使用者の側がやってきたのは、労働者を孤立させることだったのじゃないかと思えます。一人で闘うと言いますか、労働基準法の改悪で、象徴していますけども非正規が増えて、もともと組合に組織されていないというような労働者を大量に作る。正社員のほうは、人事管理を全く変更してしまって、能力主義と言いますか、成果主義と言いますか、社員の中で競争させて同じ職場にいても競争相手になってしまうという、そういう形

を作り出してなんとなく孤立させていって意識を失わせていくという状況を10年間ぐらいで、作ってきたのかなあとと思います」と全体を概括され、セミナーに向けての決意を話されました。

//// 第二部 現地実行委員会結成総会 //

結成総会は、九州セミナーの紹介、経過報告、申し合わせ事項・活動の提案がおこなわれたあと、各役員の推薦がおこなわれ、実行委員長に財団法人健和会副理事長で医師の大脇為常先生を選出しました。その後、壇上で各役員一人ずつ自己紹介をして、全ての内容について、拍手で承認されました。



////// 実行委員長から ////

【大脇実行委員長】そもそも働くことというのは、憲法27条に定められた国民の権利でありまして、国はこれを補償する義務があります。私たちの周りには私たち自身を含めて、たくさんの困難を抱えた仲間たちがおりますが、その仲間たちがお互いを知るといふ事、そして共に連帯して問題を解決していくといふ事が、憲法25条と27条の実現を目指すといふこと。それがひいては、未来の日本を切り開く取り組みであると認識しております。

今回の北九州における九州セミナーを是非とも成功に導いて、20年来続く取り組みの歴史をきちんと引き継ぎ、運動を大きく発展させて、決意を新たにしているところであります。

////// 閉会のあいさつ ////

【小野瀬さん】今日確認をしていただきました、申し合わせ事項、今後の活動案に沿ってですね、選出をされました役員を先頭に11月のセミナーの成功に向けて頑張っていきたい。